

公民館通信



2024年  
4・5月号  
No.313



↑カラー版が  
見られます



# たのしいまち

編集：たのしいまち編集委員

発行：多摩市立永山公民館 ☎206-0025 多摩市永山 1-5 ☎042(337)6661 FAX042(337)6003  
多摩市立関戸公民館 ☎206-0011 多摩市関戸 4-72 ☎042(374)9711 FAX042(339)0491

## 3年間培ったことは 育てていきたい



ひと♥ネットワーク



日野市中央公民館長 大村 国博さん

演劇の話で表情が一変した。取材に当たっては、真面目に丁寧な、話す時は言葉を選びながら、微笑むときもやや固め。それが演劇の話になるや相好を崩し、「俳優として真剣に、全力投球してみようかな」と、屈託のない笑顔に変わった。

多摩市と日野市でつくる学びの場「たま学びテラス」。地域活性化を目的として、両市の公民館が手をつなぐ広域連携は3年前から。「一緒にやりませんか？市民大学ならやりやすい」と多摩市関戸公民館に提案。それを受け、幅広い分野の学び「関戸地球大学院」「ひの市民大学」の連携が始まった。

「これが当たった！」。時はコロナ禍。ZOOMによる「市民大学」のオンライン講義に予想を超える受講者が集まり、「手ごたえがあった」と振り返る。近隣大学の支援のもと教授たちを講師に招き、様々なテーマで、とても贅沢な内容だ。外歩きでの講義も企画した。「調布玉川惣画図を歩く」「多摩丘陵地と史跡を歩こう」では、市内を歩きながら両市学芸員による説明を受けた。「段差などにも意味

がある」と知り「歴史のロマン」を感じた。住むだけのまちが、【大好きな私のまち】に変わっていく。

この3月、総括イベントを企画し、「プログラミング体験会」と、世界最高齢プログラマー若宮正子氏を招いての講演会「ゆるくつながる学びの一步」で締めくくった。目標に掲げていた「インターネットで情報発信」「まち歩き体験学習」「市民大学」共有の3つを達成し、「3年間頑張った甲斐があった！」と充実した笑顔。今後は若い世代に任せ、次の地域課題「子供の居場所づくり」に取り組みしていきたいと語る。

日野市出身。高校ではSF研究会に所属しつつ生徒会で活躍。大学では映画に入学して8ミリ映画を作り、美術工房でバイトをした。卒業後は日野市職員に。演劇は、自由な校風を持つ日野高の先輩「不等辺さんかく劇団」の松本さんに誘われて。今は他劇団に所属するが、「演じる」ことの深さを楽しみ始めている。「目指せ！令和の笠智衆」多摩市からのエールです。



## 今年度多摩市公民館では主に以下の事業を行う予定です!

## 公 民 館

「つどい・まなぶ・つながる」駅前公民館にどうぞお越しください!



## 学 校・家庭教育支援の主な事業

## 子育て支援講座

子育ての悩みなどを共有できる場作りと、自分自身の生き方を考える機会を設けます。また、青少年を取り巻く社会的・教育的な問題などを学ぶ機会を提供します。



## 子育てつどいの広場「ぴーかぶー」(原則第2・4木曜日)

## 保育室開放デー(原則第3月曜日)

館内の保育室を開放し、子育てに関する情報提供や、乳幼児期の親子が気軽に交流できる場を提供し、地域の子育て環境の充実を図ります。

## 小学生等体験講座

地域の人材や大学生などを講師として招き、学校や家庭での体験が難しい講座や、親子や多世代が交流できる講座を通して、経験・知識・視野や、世代を越えた交流などを広めるきっかけを作ります。



## 学校や地域と連携した事業

公民館の施設を活用したりイベントなどの場を通じて児童・生徒の学習成果を紹介するなど、地域に子どもたちの様子を発信していきます。また、市内中学生の職場体験や事業のボランティアなどの受け入れも行っています。

## 家庭教育学級・家庭教育講座

子どもたちの豊かな心を育成するため、保護者に対して子育ての知識や生活習慣の重要性などを学ぶ機会を作ります。

## 市 民・時事問題の主な講座

## 障がい者青年教室

障がいを持つ青年を対象に、レクリエーション活動等を通して、仲間作りや社会参加へのきっかけを支援します。(ボランティア随時募集!)



## 市民講座

市民生活の中で身近な課題を取り上げ、生活・文化などの知識を豊かな生活に結び付ける講座を開催します。

## 地球大学院

市内の大学と連携し、環境・貧困・経済など国際的な課題に対して、社会でできることを考えるきっかけを提供します。



## 地 域・生 活課題を考える事業

## ベルブゼミ

地域の課題・人材・学習意欲などを掘り起こし、継続した学習から、人のつながりや地域の広がりへのきっかけを作ります。



## 市民企画講座

市民団体から、地域・生活課題などを見据えた企画の実施を支援し、市民の自主的な学習活動を展開するため、広く学習の場を提供します。講座は団体が企画します。



## 地域生活講座

地域の拠点施設であるコミュニティセンターなどと連携して、地域・生活課題の解決につながる講座を実施し、人づくり・地域づくりにつながる場を提供します。

## 地 域 活 性 化 事 業

- ・ふるさと多摩映画上映会
- ・永山フェスティバル(9月21日~22日予定)
- ・クリスマスイルミネーション など



地域団体などと連携し、イベントを通して地域を盛り上げます。



ポッチャ体験会



イルミネーション

※過去の取組の様子

## 市 民 文 化 活 動 支 援 事 業

文化芸術のさまざまな分野をテーマに、市民が主体となって出演・企画運営をする催しに公民館が支援し、気軽に音楽や映像文化などに触れる機会を作ります。

- ・サロンライトコンサート  
(6月~3月の第2土曜日)
- ・TAMAシネマフォーラム
- ・演劇フェスティバル
- ・VITA コンサート
- ・What's Jazz



## 情 報 発 信 事 業

## 公民館通信「たのしいまち」の発行と広報等情報提供

市民ボランティアの編集委員とともに公民館の各種情報を掲載した通信を年に6回発行しています。編集作業を行っています。また、たま広報等でも事業の案内や募集、実施した講座の報告などを行います。

## 東日本大震災&能登半島地震復興支援 「トークセッション&ふれあいコンサート」に参加して

2024年3月20日

関戸公民館ヴィータホールにて

第43回せいせき桜まつり実行委員会主催

第一部「震災について」トークセッション

(福島と多摩をつなぐ交流の集い参加者による)

第二部 福島と多摩をつなぐふれあいコンサート♪



「福島しあわせ運べるように合唱団」の美しい歌声に酔いしれた。団員たちの真剣さと、指揮をとる佐藤先生の迫力に胸が熱くなり、合唱団から目が離せない。感動！「福島と多摩をつなぐコンサート♪」が「せいせき桜まつり企画」として始まったのは合唱団が結成された2015年。9年前のことだ。

福島県との交流は、さらにその3年前から。「せいせき桜まつり」に、福島第一原発事故の影響で全町避難になった浪江町の方々をお招きして始まった。福島県とはその後も毎年交流を重ね、小中学生のメッセージが書かれた「桜の花びら」で関戸公民館ギャラリーを満開にした年もある。

第一部はトークセッション。「福島と多摩をつなぐ交流の集い」に参加したかつての子供たちに、震災の経験談や夢を語っていただくこと企画された。ファシリテーターを務めた渋下すみれさんは、初回コ

ンサートに東落合小合唱団の一員として参加し、合唱曲の伴奏をした。4回目の参加だという。「この催しに様々な形で参加させて頂いてきた。感慨深いものがある。」という大学3年生。今回も、「防災訓練は冬にもやってほしい。神戸、東日本、能登と、震災は寒い時期に起こっている。」「震災で行政の方々にお世話になった。将来、そのような職業に就きたい。」等々、福島の登壇者の話を真剣に聞いていた。

第二部はコンサート。多摩中在校生・卒業生有志による手話歌、多摩第一小6年生有志による合唱、さらに「福島しあわせ運べるように合唱団」の「いつかまた浪江の空を」「群青」。最後に出演者全員で「未来の光へ☆」を合唱した。伴奏は、今年で3回目の参加となる吉本元汰君。昨年に続いての大役に「貴重な体験をさせていただいている。」という。

「震災を風化させない！」の合言葉のもと企画を続け、子供の成長に目を細める大人たち。参加してきた子供たちは大人の階段を上り始めている。(月)

### 文庫連会員がお勧めする本

#### 『1まいのがようし』

長坂 真護 / 作

あかね書房 2022年刊



路上画家として世界各国を旅するなかで、2017年に訪れたガーナで先進国が捨てた電子機器を燃やして金属を取り出す事で、生計を立てる人々と出会った。

現地の廃材を取り入れた美術作品を制作し、その売り上げでガーナにリサイクル工場を作り、教育や農業にも力を注ぎ、持続可能な経済活動を目指した事業を展開している著者の体験を題材にした絵本です。読者に一石を投じた絵本です。

多摩市文庫連絡協議会 なかよし文庫 鈴木百合子

銘菓しりとり編 - 永山の楽ちゃん -



①わかさいも ②まんじゅう ③ながしの湯 ④東京ケーキ ⑤あんぱん ⑥白い恋人 ⑦トラピスト ⑧ブッシュドノエル ⑨ガウフレ

☆娘の彼のお姉様がハワイで挙式。「じゃあ前撮りするー♪」と娘もハワイの絶景の中、純白ドレスで何千枚もモデル撮影。挙式中、突如娘の挙式が始まった。彼氏の粋なサプライズ。娘、号泣。だから私たちも呼ばれたのかー。ええ彼氏や(涙) (楽)

☆今年で公民館生活も4年目。まだまだ知らないこととがたくさんあるなあとしみじみ。新たな気持ちで引き続き頑張っていきたい。(心)

☆今年から公民館へ異動となった。事業数が多く、いっぱい勉強しなきゃと思った。多摩市の公民館は施設が立派で、事業も盛りだくさん！みなさんも公民館に遊びに来てね。(や)

☆人にフオーカスする「たのしいまち」。日野中央公民館長から素晴らしいですね、と嬉しいお言葉をいただいた。創刊号から続く笑顔輝く1面。先輩諸氏の思いがこもっている。心の底でワーイ！と叫んだ。(月)

編集後記



コラム え・さ・せ・と・ら

青年海外協力隊員として、太平洋に浮かぶ小さな島国・パラオの小学校に派遣されて9か月。今回は、3月に行われたイベントについてお伝えしたい。

パラオでは、全国で統一して3学期末に4日間かけて文化啓発週間をもつ。普段の「国数英理社」の授業ではなく、文化に関する授業を毎日行うというもの。初日、まずはブタとカメの屠殺(トサツ)から。地域の住民や保護者達が集まり、ブタの運搬から屠殺、パラオ伝統の切り方までを子ども達に丁寧に指導していた。また、パラオでは慶事の際にカメを食べる習慣があり、全長1mを超える大きなカメを小学8年生の男子達が上手にさばっていた。全てを残さずありがたく頂く…という考えのもと、カメの頭から腸まで、もちろん甲羅や最後の血の一滴も無駄にすることはない。このブタとカメを、最終夜のダンスイベントまで日にちをかけてじっくり調理していた。

2日目は日本料理体験デー。もちつき・たこ焼き・いなり寿司で大盛り上がり。

そして、最終夜。ボートに乗らないと来られないような離島の学



校含めて3校が来校し、3日間かけて作ったご馳走をいただきながら、伝統ダンスを披露しあう。なんと夜11時までダンスはひたすら続き、その後は公民館で保護者や教員も含めて皆で就寝。

4日目の運動会(パラオ語でもウンドーカイ)を楽しんでから、それぞれの学校が帰路についた。

なんとも、豪華な4日間。人口が2万人に満たない小国のパラオが、伝統文化を絶やさず次世代に伝えようとする情熱が伝わってくる文化啓発週間であった。(ニーチェ)



ブログやってます

Aliii!南の島 パラオから「こんにちは」

たかく高く天高く  
のびのび泳げ鯉のぼり  
月と5月の  
いらかの波と雲の波  
ごいとひごいよ  
きゅうも見下ろし



「たのしいまち」うた みなさまもチャレンジしてみてくださいね。楽しい作品、お待ちしております。